

単元	7 たし算とひき算のひっ算(2) (12時間)	
目標	<ul style="list-style-type: none"> 筆算が用いられる場面に関心をもち、そのよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。 十進位取り記数法を基に、2位数同士の筆算の仕方から類推して(3位数)±(2位数)の筆算の仕方を考えられるようにする。 2, 3位数の加法・減法を筆算形式に書き表し、計算することができるようにする。 加法・減法の筆算形式での書き方や計算の仕方を理解できるようにする。 	
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 算数への関心・意欲・態度 数学的な考え方 数量や図形についての技能 数量や図形についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> 加法や減法の筆算のよさがわかり、進んで活用しようとしている。 数え棒を用いた操作活動などを通して、筆算による計算の仕方を既習事項を活用して考えている。 2, 3位数の加法や減法の筆算ができる。 数の大きさについての豊かな感覚をもち、2, 3位数の加法や減法の筆算の仕方を理解している。

【既習事項】

- ・(2位数) + (2位数) <100, 逆のひき算の筆算
- ・(2位数) ± (1位数) ・(2位数) + (何十) <100, 逆のひき算
- ・(何十) + (何十) >100 と (何百) + (何百) ≤1000, 逆のひき算

【第4学年の指導】

- ・(3位数) ± (3位数) の筆算
- ・(2位数) ± (2位数) の暗算

指導案の表記について

有能感

九九の表なら作ることができそう。

その活動を行うことで、子どもがもつと考えられるおもしろい

その活動で、育てたい学習意欲のみなもと

【単元計画】

時	学習活動
1	(2位数) + (2位数) の十の位が繰り上がる筆算の仕方を、進んで考えようとする。
2	(2位数) + (2位数) の一の位、十の位がともに繰り上がる筆算の仕方を考える。
3	(2位数) + (2位数) + (2位数) の筆算の仕方を考える。
4	2位数の加法の筆算をする。
5	(3位数) - (2位数) の筆算についての見通しをもてるようにする。
6	(3位数) - (2位数) の百の位から繰り下がる筆算の仕方を考える。
7	(3位数) - (2位数) で2回繰り下がる筆算の仕方を考える。
8	被減数の十の位が空位になっている筆算について、繰り下がり計算の仕方を理解する。
9	(3位数) - (2位数) の筆算をする。
10	(3位数) ± (2位数) の筆算の仕方を考える。
11	問題文と図、式を関連付けて考える。
12	単元のまとめや「学びをいかそう」に取り組み、学習内容が定着しているかを確認する。

※小単元「ひき算」(第5時～第8時)の指導案を掲載しています。

<第5時>本時の目標… (関心・意欲・態度) 拡大や縮小に関心を持ち、それらの性質を自ら進んで調べようとする。

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. 百の位が1で (3 位数) - (2 位数) の筆算を学習していくことを知る。(7分)	「今日からひき算の筆算の学習をします。どんな学習をするのか、問題を作って考えてみましょう。」	
1□□-□□のひっさん名人へのみちをみつけよう。		
	<p>補助発問：「どんな問題がとければ、ひっさん名人になれるかな。」</p> <p>*例題を全体で行うことで、見通しをもつことができるようにする。</p> <p>例題：189-54</p> <p>・かんたん ・繰り下がりが無いから</p>	
2. どのような問題が出てくるか問題を作って予想する。(10分)	○計算ができる、できないではなく、その問題のどこが難しいかを後で話し合うのでノートにも書き留めておくことを子どもたちに伝える。	<p>関心・意欲・態度</p> <p>筆算を立て、問題の難しさについて考えようとしている。 (ノート記述への様子)</p>
3. 問題をまとめ、今後の 学習の進め方を考える 。(20分)	<p>○問題を下記の四つに分類し、まとめる。</p> <p>①十の位からの繰り下がり</p> <p>②百の位からの繰り下がり</p> <p>③十の位からも百の位からも繰り下がり</p> <p>④十の位からの繰り下がりがあるが、十の位が0</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>筆算を立て、問題の難しさについて考えようとしている。 (発表の様子)</p>
4. 振り返りを書き、交流する 。(8分)	<p>「ひき算の問題を作り、難しいところを考える活動はどうでしたか。」</p> <p>*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。</p>	

自己決定
感
自分たちで単元の学習計画を考えた。

自己決定
感
次の時間からは、自分たちの作った問題について考えていこう。

<第5時板書計画>

1 □ □ - □ □ のひっ
さん名人へのみちをみ
つけよう。

$$\begin{array}{r} 189 \\ - 54 \\ \hline 135 \end{array}$$

くり下がりがないので
かんたん

$$\begin{array}{r} 115 \\ - 68 \\ \hline \end{array}$$

一のくらいも十のくらいも
ひけない

$$\begin{array}{r} 108 \\ - 79 \\ \hline \end{array}$$

十のくらいからくり下がり
たたくても0でこまる

① 十のくらいからくり
下がる


② 百のくらいからくり
下がる

③ 十のくらいからも
百のくらいからも
くり下がる

④ 十のくらいからくり
下がれない
(十のくらいが0)

さん数日記

<第6時>本時の目標… (数学的な考え方) (3位数) - (2位数) の百の位から繰り下がる筆算の仕方を考える。

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	○問題は前時に出てきたものを使えるとよい。	
十のくらいがひけなくなるひっさんのしかたをかんがえよう。		
2. 解法の「見通し」をもつ。 (5分) 有能感 数え棒を使うと、考えられそうた。	* 百や十の図のかき方を確認することで、自力解決時にノートに計算の操作を図示できるようにする。 	
3. 問題を自分で解く。 (7分)	(135-72 の場合) ・一のくらいは $5-2=3$ ・十の位は百から1くり下げて $13-7=6$ ・答えは 63 * 数え棒を使用することで、引けない場合は上の位を一つばらすことを確認することで、繰り下がりの意味を理解できるようにする。	数学的な考え方 繰り下がりのあるひき算の筆算の仕方を筋道立てて考えている。 (ノートへの記述, 発表)
4. 解き方を話し合う。 (15分)	○手順を板書する。	
5. 本時で学習したことを「伝え合う」。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。	「今日の伝え合いは筆算をかきながら、伝えてみましょう。」 ○伝え合いが終わったところから、適応題に取り組むように伝える。 (適応題の説明)	
6. 「適応題を選択」し、取り組む。(7分) 他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。	適応題は 1 問 (135-82) 解いた後、プリントの問題を解く。右 (どんどんコース) からでも左 (かんぺきコース) からでもどちらから取り組んでもよいが、先に始めた方の□にチェックをするように伝える。	
自己決定感 自分で問題を選んで解いた。		

<p>7. 振り返りを書き、交流する。</p> <p>(3分)</p> <p>自己決定感 次はこんなふうに学習を進めよう。</p>	<p>○適応題が途中で振り返りを書くように指示する。</p> <p>*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。</p>	
--	---	--

<第6時板書計画>

十のくらいがひけなくなるひっさんのしかたをかんがえよう。

1 3 5 - 7 2

~~100~~ ~~10~~ ~~10~~ ~~10~~ |||||

10 10 10 10 10

~~10~~ ~~10~~ ~~10~~ ~~10~~ ~~10~~ 5 - 2 = 3

1 3 - 7 = 6

一のくらい

十のくらい

① 一のくらいは
5 - 2 = 3

② 十のくらいは
百のくらいから
1くり下げて
1 3 - 7 = 6

③ こたえ 6 3

$$\begin{array}{r} 135 \\ - 72 \\ \hline 63 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 135 \\ - 82 \\ \hline 53 \end{array}$$

さん数日記

準備物：数え棒（カード，掲示用），練習プリント

<第7時>本時の目標… (数学的な考え方) (3位数) - (2位数) で2回繰り下がる筆算を考える。

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	○問題はひき算の学習計画作成時に出てきたものを使えるとよい。	
<p>一のくらいも十のくらいもひけないひっさんのしかたをかんがえよう。</p>		
2. 解法の 見通し をもつ。 (5分) 有能感 数え棒を使うと、考えられそうた。	* 百や十の図のかき方を確認することで、自力解決時にノートに計算の操作を図示できるようにする。	
3. 問題を自分で解く。 (7分)	(142-83 の場合) ・一の位は十の位から1くり下げて $12-3=9$ ・十の位は百の位から1くり下げて $13-8=5$ ・答えは 59 * 数え棒を使用することで、引けない場合は上の位を一つばらすことを確認することで、繰り下がるの意味を理解できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 数学的な考え方 </div> <p>繰り下がりのあるひき算の筆算の仕方を筋道立てて考えている。 (ノートへの記述、発表)</p>
4. 解き方を話し合う。 (15分)	○手順を板書する。	
5. 本時で学習したことを 伝え合う 。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。 他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。	○ノートに筆算をかきながら、言葉で説明するように伝える。 ○伝え合いが終わったところから、適応題に取り組むように伝える。 (適応題の説明) 適応題は1問(175-79) 解いた後、プリントの問題を解く。右(どんどんコース)からでも左(かんぺきコース)からでもどちらから取り組んでもよいが、先に始めた方の□にチェックをするように伝える。	
6. 適応題を選択 し、取り組む。(7分) 自己決定感 自分で問題を選んで解いた。		

<p>7. 振り返りを書き、交流する。</p> <p>(3分)</p> <p>自己決定感 次はこんなふうに学習を進めよう。</p>	<p>○適応題が途中で振り返りを書くように指示する。</p> <p>*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。</p>	
--	---	--

<第7時板書計画>

一のくらいも十のくらいもひけないひっさんのしかたをかんがえよう。

1 4 2 - 8 3

1 3 - 8 = 5

十のくらい

一のくらい

① 一のくらいは
十のくらいから
1くり下げて
1 2 - 3 = 9

② 十のくらいは
百のくらいから
1くり下げて
1 3 - 8 = 5

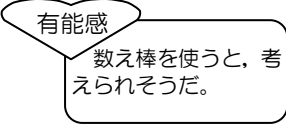
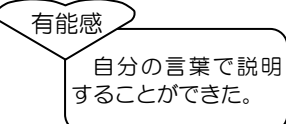
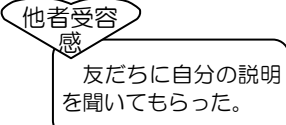
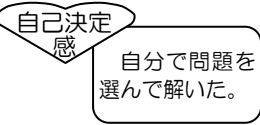
③ こたえ 5 9

1 4 2	1 7 5
- 8 3	- 7 9
5 9	5 9

さん数日記

準備物：数え棒（カード，掲示用），練習プリント

＜第 8 時＞本時の目標…（知識・理解）被減数の十の位が空位になっている筆算について、繰り下がりの計算の仕方を理解する。

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	○問題はひき算の学習計画作成時に出てきたものを使えとよい。	
十のくらいが0で、くりさがりができないひっさんのしかたをかんがえよう。		
2. 解法の 見通し をもつ。 (5分) 	* 百や十の図のかき方を確認することで、自力解決時にノートに計算の操作を図示できるようにする。	
3. 問題を自分で解く。 (7分)	(103-67 の場合) ・一の位は百の位から1くり下げて十の位を10にする 十の位から1くり下げて $13-7=6$ ・十の位は $9-6=3$ ・答えは 36 * 数え棒を使用することで、引けない場合は上の位を一つばらすことを確認することで、繰り下がりの意味を理解できるようにする。	知識・理解 百の位から一の位へ繰り下がる処理の仕方を理解している。(ノートへの記述, 発表)
4. 解き方を話し合う。 (15分)	○手順を板書する。	
5. 本時で学習したことを 伝え合う 。(5分) 	○ノートに筆算をかきながら、言葉で説明するように伝える。 ○伝え合いが終わったところから、適応題に取り組むように伝える。 (適応題の説明)	
	適応題はI問(100-94)解いた後、プリントの問題を解く。右(どンドンコース)からでも左(かんぺきコース)からでもどちらから取り組んでもよいが、先に始めた方の□にチェックをするように伝える。	
6. 適応題を選択 し、取り組む。(7分) 	○適応題が途中で振り返りを書くように指示する。	

7. **振り返りを書き、交
流する。**

(3分)

自己決定
感

次はこんなふうに
学習を進めよう。

○適応題が途中で振り返りを書くように指示する。

*友だちの振り返りを聞くことができるようにする
ことで、次時の自分の活動に生かすことができる
ようにする。

<第8時板書計画>

十のくらいが0で、
くり下がりができない
ひっさんのしかたをか
んがえよう。

1 0 3 - 6 7

~~100~~

10 10 10 10 10

~~10~~ ~~10~~ ~~10~~ ~~10~~ 10

|||||

|||||

1 3 - 7 = 6

9 - 6 = 3

十のくらい

一のくらい

- ① 一のくらいは
百のくらいから
1くり下げて
十のくらいを10に替
 - ② 十のくらいから
1くり下げて
1 3 - 7 = 6
 - ③ 十のくらいは
9 - 6 = 3
 - ④ こたえは 3 6
- $$\begin{array}{r} 103 \\ - 67 \\ \hline 36 \end{array}$$
- $$\begin{array}{r} 100 \\ - 94 \\ \hline 6 \end{array}$$

さん数日記

準備物：数え棒（カード，掲示用），練習プリント

名まえ ()

どんどんコース

ひっさんをしましょう。

$$\begin{array}{r} \textcircled{1} 139 \\ - 48 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 104 \textcircled{1} \\ - 91 \textcircled{2} \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{3} 126 \\ - 73 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{1} \\ - \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{2} \\ - \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{3} \\ - \\ \hline \end{array}$$

先にするほうに○をつけてスタート!

かんぺきコース

けいさんのしかたをせつ明しましょう。

今日学しゅうしたことのもんだいを作って、せつ明をかいとときましょう。

名まえ ()

どんどんコース

ひっさんをしましょう。

$$\begin{array}{r} \textcircled{1} 142 \\ - 93 \\ \hline \end{array}$$

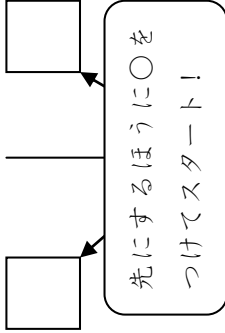
$$\begin{array}{r} 152 \textcircled{1} \\ - 99 \textcircled{2} \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{3} 175 \\ - 78 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{1} \\ - \\ \hline \end{array}$$

かんぺきコース

けいさんのしかたをせつ明しましょう。



今日学しゅうしたことのもんだいを作って、せつ明をかいとときましょう。

③

名まえ ()

どんどんコース

ひっさんを楽しみましょう。

$$\begin{array}{r} \textcircled{1} 107 \\ - 58 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 100 \\ - 9 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{3} 100 \\ - 93 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \textcircled{1} \\ - \\ \hline \end{array}$$

かんぺきコース

けいさんのしかたをせつ明し

先にずるほうに○をつけてスタート！

$$\begin{array}{r} 100 \\ - 9 \\ \hline \end{array}$$

今日学しゅうしたことのもんだいを作って、せつ明をかいてときましよう。

$$\begin{array}{r} \textcircled{2} \\ - \\ \hline \end{array}$$

- ③
- ④